

JP通信



春を告げる桃の節句。中国から 伝わって日本の伝統文化となる

3月3日の誕生花は『菜の花』『花桃』です

『節句』とは、季節の節目のことで、現在ではお祝い行事となつていますが、昔は邪気を祓うための行事だったそうです。平安時代にご令嬢の間で

ひな祭りの別名『桃の節句』は、古代中国の『上巳節』（じょうしせつ）が起源といわれ、3月上旬にあたる上巳節は、季節の変わり目で邪気が入りやすいとされてお、人々は水辺でみそぎをして、身を清めていたそうです。この上巳節が日本に伝わり、邪気を人形に移して川に流すようになりまし。この人形が、ひな人形の原型となります。旧暦の3月3日頃は桃の花が咲くことから、桃の節句と呼ばれるようになった。

『ひいな遊び』というお人形遊びが流行しました。『ひいな』とは小さく可愛らしいものを表し、この『ひいな』と『人形』が結びつき、ひな人形となったそうです。子供の健やかな成長を願ひ飾るひな人形ですが、子供が成長し役目を終えたあとには、神社やお寺で子供養ってもらったり、人形の寄付を募っている団体に寄付するなど、選択肢も多そうです。最後は感謝を込めて後悔なく大切に手離したいですね。



最近では雛飾りも様々なタイプがありますね

◆仏舍利塔に行ってみた◆

誰もが目にしているだろう、あの塔です！
釧路市城山にある、あの白い塔。そう、仏舍利塔！ほとんどの釧路市民が知っていると思われませんが、さて。日本各地にあるこの仏舍利塔とは、どういったものなのでしょう？
釧路の仏舍利塔は1959年に建てられたそう。後に多くの仏舍利塔を設計した『大岡實』さんが一番最初に設計した塔が釧路の仏舍利塔で、日本では3番目に建立されました。水産加工業を営んでいた『中村小三治』さんという方が私財を出して世界恒久平和と豊漁を祈願し、工事が進められました。人力によって延べ2万人の方が、約20年かけて作り上げた塔なんですね。この仏舍利塔は全面石張りの仕上げで、近くで見るとより美しく、遠くからでもその姿は青空に綺麗に映えます。そもそも仏舍利塔とは、お釈迦様の遺骨（仏舍利）を安置する塔で、昔、その遺骨に宝石や貴金属を混ぜ、それらすべてを仏舍利として扱ったそうです。ちなみに釧路には6粒の仏舍利が奉納されているということです。大地震にも耐え、今も変わらず釧路の街を見守っている仏舍利塔。私は釧路に約40年住んでいますが、今回初めて近くまで行き、周りをぐるっと歩いてみました。東西南北の彫刻もとても美しく、感動しました。機会があれば、皆様も近くまで行ってみてくださいね。

車検の仕組みが変わります

現在は有効期間満了日の1か月前から受けることができる車検ですが、今年の4月より『有効期間満了日の2か月前』から受けられるようになりまし！現在の仕組みでは、車検が集中する時期（年度末など）には、整備士の方々が残業や休日出勤に追われる事が問題となつています。それらを改善するためもあり、今回の改正が実施される

ということなんです。私たちが車検を受けやすくなるだけでなく、働く方の環境改善も実現できるなら、



車検証も変わっています！

とても良い改正ですね。ちなみに、改正後の車検証の有効期限は、古い車検証の期限後から始まるため、早めに受けても有効期限は変わりませ。また、令和5年1月から、車検証の電子化が順次行われています。紙の車検証はサイズが小さくなり、スマホアプリでQRコードを読み取って詳細を確認できるようになっています。必ず車に積んである車検証ですが、じっくり見ることであまりないのではないのでしょうか？この機会に見てみるのはいかがでしょうか？

今回色々調べてみて、初めて知ることがほとんどでした。また機会があれば行ってみたいと思っております！

